

日本薬学会第146年会ジオインテシノポジウム JSO5

薬系博士人材養成の現状と今後の展開

薬系博士人材養成の現状と展望

現状の問題

6年制教育偏重
研究時間減少
経済負担増

博士人材減少

研究力低下

3つの提案

✓ 博士進学意欲向上

- 奨学金支援
- 多様なキャリア提示
- ロールモデル提示
- 博士取得後の処遇の提示

✓ 社会ニーズに応える養成

- 専門的能力
- 汎用的能力
- 社会人ドクター支援

✓ 共同研究の推進

- 異分野連携
- 臨床×基礎連携
- 共同研究

目指す未来

薬系博士人材 × 活躍の場は多様

本シンポジウムでは、文科省「博士人材活躍プラン」へのアンケート調査や第2回設立記念フォーラムの結果をまとめた「報告：薬系博士人材養成の現状と展望」の概要を紹介します。あわせて、製薬・医療現場でのロールモデルや大学の課題などについて話題提供を受けるとともに、現役院生を交えた討論を通じて、今後の薬系博士人材育成の展望を議論します。

2026 3|27㊱ 14:25-16:40

会場：第03会場（第2学舎3号館 E棟 [2F] E201）

オーガナイザー：高倉 喜信（京大白眉セ）、望月 真弓（元慶應大）

14:25 挨拶・趣旨説明

高倉 喜信 京大白眉セ

14:45 『製薬企業からみた博士人材への期待』

松田 浩一 日本製薬工業協会製薬協

『医療現場で求められる博士人材について考える - 臨床において薬剤師が研究する必要性 -』

近藤 悠希 熊本大院薬

『博士課程進学率アップのために大学はどのように変わるべきか？』

武田 真莉子 神戸学院大薬

塩崎 裕美 東北大院薬

15:35 パネル討論

ファシリテーター：池川馨（東京薬大院薬）、松村 清香（東京薬大院薬）

パネリスト：松田 浩一（日本製薬工業協会製薬協）、近藤 悠希（熊本大院薬）、武田 真莉子（神戸学院大薬）

塩崎 裕美（東北大院薬）、菅原 満（北大院薬、北大病院）、西村 佑介（科学技術振興機構）、

山口 泰暉（東京薬大院薬）

16:35 総括

高倉 喜信 京大白眉セ

本シンポジウムに先立ち、同日、同会場では 13:10 から大学院生シンポジウム「薬系博士人材養成の現状と今後の展開～学生が探る「優秀な博士人材とは？」」が開催されます。